

オバマ来日以降の日米関係

東洋英和女学院大学副学長

なか
おか
中岡

のぞむ
望

- * パブリック・ディプロマシーに鈍感な日本
- * 日米関係は米中関係の従属変数
- * 尖閣諸島巡るオバマ大統領発言の真意
- * サンフランシスコ条約の隠された論点
- * 実にはTPP反対が多いアメリカの民主党
- * 内向き過ぎる日本のメディア報道
- * 歴史的にも米国にとって中国は重要な国
- * 米中の間に見られる親和力の背景
- * 嫌中、嫌韓一辺倒の安倍外交
- * 今の大統領の最優先課題は国内経済の再建



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は東洋英和女子大学の副学長をされております中岡先生においでいただきました。皆様にはこれまで何度かお話を聞いていただいておられますので、特にご紹介の必要もないと思いますが、東洋経済新報社で長く記者をした後、独立されました。アメリカの事情にたいへん精通しておられます。本日は、午前中にオバマ大統領が韓国へ飛び立ったことでもあり、これからの日米関係についてお話しただこうと思います。それでは中岡先生、よろしく願っています。（拍手）

中岡 望

中岡 中岡です。よろしく願っています。何名かの方はすでに何度かお話を聞いていただいた方と思いますが、ちょっと付け加えて自

己紹介をしますと、ちょうど2002年ですか、東洋経済を辞めまして、アメリカに1年ほど行きました。セントルイスにあるワシントン大学でアジア経済論を教えて、帰ってきて、フリーのジャーナリストとして仕事をしてきました。4年前、東洋英和女学院大学から国際経済学を教えてくれなかつたか声がかりました。本当はずつとフリーでいたかつたのですが、歳をとるとともにだんだんしんどくなつてくるものです。そこで、フリーの仕事も続けながら大学教授も悪くはないかと思ひ、依頼を引き受けました。この4月1日から副学長に就任し、大学の行政や運営を担当するようになりました。東洋経済を辞めた最大の理由は、会議が嫌いだつたからですが、人生は不思議なもので、今は会議はつ